

主な青年国際交流事業(国)

資料 1

実施主体	内閣府					文部科学省					外務省		
事業名	「東南アジア青年の船」事業	「世界青年の船」事業	国際社会青年育成事業	日本・中国青年親善交流事業	日本・韓国青年親善交流事業	青少年国際交流推進事業	地域における青少年の国際交流推進事業	アジア高校生架け橋プロジェクト	オーストラリア科学奨学生派遣	日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)	アジア地区スポーツ交流事業	対日理解促進交流プログラム(JENESYS2020(アジア大洋州地域)、KAKEHASHI(北米地域)、MIRAI(欧州地域)、JUNTOS!!(中南米地域))	
目的	我が国の中核となる青年リーダーを育成する					教育の振興及び生涯学習の推進を中核とした豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成、学術、スポーツ及び文化の振興並びに科学技術の総合的な振興を図る。					人的交流を通じ、我が国の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等に関する理解促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘し、また、日本の外交姿勢や魅力等について被招へい者・被派遣者自ら積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、我が国の外交基盤を拡充する。		
特色	日本青年を「国際社会・地域社会で活躍する次世代グローバルリーダー」に育成することを目的に、国際的課題についてディスカッション能力の向上や国際社会での実践力の向上を図る。					文部科学省事業は、学校での交流のほか、青少年教育施設を中核に、政府・行政関係者並びに地域の教育関係機関及び青少年教育団体等との連携を一層推進させ、青少年教育全体の質の向上を図り、我が国の次代を担うグローバル人材の育成につながる教育的効果の高い体験活動、研修等の機会の提供をすることにより、将来に向けての好循環を生み出す。					・アジア諸国で日本語を学ぶ優秀な高校生を日本全国の高校に半年から1年間程度招へいし、日本各地でホームステイや寮生活をしながら、日本の高校生と共に学び合い、国際交流を深め、互いの国に精通したリーダー、架け橋となる人材を育成。 ・文科省で選考された優秀な高校生がシドニー大学で夏期2週間開催される「高校生のための国際科学学校」に参加し、最新の科学知識に関する講義を受け、また、他国からの参加高校生との交流を深める。 ・科学技術分野でのアジア地域との青少年交流プログラムを実施することで、優秀な青少年が、日本の最先端科学技術への関心を高め、もって日本の大学・研究機関や企業が必要とする海外からの優秀な人材の獲得に貢献する。	・日本・韓国・中国をはじめとするアジア各国並びにロシアとの青少年及び成人によるスポーツ交流を行い、各国との相互理解を深め、友好親善とスポーツの推進を図る。	・外交政策の観点から、日本とアジア・大洋州・北米・欧州・中南米との間で対外発信力を有し将来を担う人材を招へい・派遣し、対日理解の促進プログラムを実施することで外交基盤の強化に資する親日派・知日派を発掘すると共に、招へい・派遣対象国・地域における対外発信を強化し、国際社会における対日イメージ向上及び日本への持続的な関心の増進に繋げる。
対象者	18～30歳 (都道府県等からの推薦を受け、内閣府で面接、筆記試験等による選考を実施)					(ドイツ)青少年教育指導者、勤労青年(社会貢献等に関心のある勤続約10年以内の青年)、学生青年リーダー(ボランティア活動に取組む青少年) (韓国)高校生(相手国語を学んでいる高校生)等	青少年 (主として中学生・高校生)	高校生	高校生	40歳以下の高校生、大学生、大学院生、ポストク等	小学生、中学生、高校生、成人	招へい:対外発信力を有し、将来、各界で活躍が期待される高校生等～社会人 派遣:日本の魅力について強い発信力が期待される高校生～大学院生等 (国・地域により異なる。)	
期間	陸上研修8日間 船上研修42日間	陸上研修6日間 船上研修34日間	派遣:18日間 受入:16日間	派遣:12日間 受入:12日間	派遣:15日間 受入:15日間	【派遣】 (ドイツ)15日間 (韓国)5日間 【受入】 (ドイツ)15日間 (韓国)5日間	指定なし	10か月	約2週間	7日～3週間	各交流による	派遣:10日程度 受入:10日程度	
開始年	1974年(昭和49年)	1968年(昭和43年)青年の船	1959年(昭和34年)	1979年(昭和54年)	1987年(昭和62年)	2002年(平成14年) ※(ドイツ)勤労青年1997年(平成9年)～ 学生青年リーダー 1998年(平成10年)～ (韓国)2004年(平成16年)～	2016年(平成28年)	2018年(平成30年)	1968年(昭和43年)	2014年(平成26年)	(1)日韓中ジュニア交流競技会(夏季交流):1993年 (2)日韓スポーツ交流事業:1997年 (3)日中スポーツ交流事業:1996年(青少年スポーツ団員交流)/2007年(日中成人スポーツ交流) (4)地域交流推進事業:2003年(日韓交流)/2007年(日中交流)/2017年(日露交流)	2015年(平成27年)4月 (参考) ※JENESYS2.0.KAKEHASHI Project.MIRAI.JUNTUS!!	
交流対象国	ASEAN10カ国	10カ国	6カ国	中国	韓国	ドイツ、韓国	全世界	バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、中国、香港、インドネシア、インド、韓国、ラオス、マレーシア、モルディブ、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、トルコ、ベトナム	オーストラリア	中国、大韓民国、台湾、モンゴル、インドネシア、タイ、マレーシア、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス、シンガポール、フィリピン、ブルネイ、東ティモール、インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ブータン、モルディブ、パラオ、ミクロネシア、マーシャル諸島、ソロモン諸島、トンガ、サモア、フィジー、バプアニューギニア、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン ※試行的交流 アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、メキシコ、ペルー	韓国、中国、ロシア	アジア大洋州(39)、北米(2)、欧州(約50)、中南米(33) ※():国・地域数	
交流形態	船	船	派遣、招へい	派遣、招へい	派遣、招へい	派遣、招へい	招へい	招へい	派遣	招へい	派遣、招へい	招へい、派遣	
上段:派遣人数 下段:受入人数 ※予算ベース	日本人 46名 外国人 310名	日本人 122名 外国人 130名	日本人 42名 外国人 48名	日本人 30名 外国人 30名	日本人 30名 外国人 30名	派遣人数(日本人): 132名 受入人数(外国人): 132名	受入人数: 32名	受入人数: 200名 ※平成30年からの5年間で合計1,000名を招聘。	派遣人数: 10名程度	外国人 6,100名	(1)日韓中ジュニア交流競技会 日本選手団 247名/秋田県選手団 247名/韓国選手団 247名/中国選手団 247名 ※R2年度は日本が受入国 (2)日韓スポーツ交流事業 ■日韓青少年夏季スポーツ交流:(派遣)218名/(受入)218名 ■日韓青少年冬季スポーツ交流:(派遣)159名/(受入)159名 ■日韓スポーツ交流・成人交換交流:(派遣)176名/(受入)176名 (3)日中スポーツ交流事業 ■日中成人スポーツ交流:(派遣)61名/(受入)61名 ■日中青少年スポーツ団員交流:(派遣)40名 ※R2年度は中国が受入国 (4)地域交流推進事業: ■日韓地域交流:(派遣)40名/(受入)20名 ■日中地域交流:(派遣)20名/(受入)20名 ■日露地域交流:(派遣)80名/(受入)60名 ※人数は年度当初の予定数	規模:約3,100人	
日本人の参加者の自己負担	派遣 30万円程度	派遣 22～23万円程度 ※参加費免除枠あり	派遣 22～23万円程度 (訪問地域により異なる)	派遣 11万円程度	派遣 9万円程度	派遣渡航費の半額	-	-	-	-	(1)日韓中ジュニア交流競技会、(2)日韓スポーツ交流事業、及び(3)日中スポーツ交流事業の派遣事業においては、参加料として一律一万円負担	非ODA国の社会人一部(食費) 事前学習にかかる費用	

(注)各省HP等により作成

主な青年国際交流事業(民間団体)

実施主体	(独)国際協力機構	(独)国際交流基金	(公財)日本生産性本部	非営利団体 ビースポート	(公財)イオンワンパーセントクラブ	
事業名	JICAボランティア派遣事業	日本語パートナーズ派遣事業	中国高校生長期招へい事業	世界生産性の船	ピースボートクルーズ	ティーンエイジ・アンバサダー アジアユースリーダーズ
目的	(1)開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与、(2)異文化社会における相互理解の深化と共生、(3)ボランティア経験の社会還元	現地日本語教師の教育活動を支援するとともに、教室内外の学習者の支援や文化交流を通して、日本語と日本文化の魅力を伝える。日本語パートナーズ自身にも、現地での活動と人々との交流を通して、派遣先国・地域の文化や言語に対する理解を深め、将来的にアジアの架け橋となることを期待。	次世代を担う中国の高校生に、日本の一般的な高校生の生活を体験する機会を提供し、日本の人々に中国の若者と直接交流する機会を提供するとともに、日中両国の人々が個人レベルでの信頼関係を築く。	参加者の満足の提供及び、所属組織の満足を提供する。また、参加者が「生産性の船」への参加によって、さまざまな“気づき”を得て、自身に何ができるのかを深く考える。考えて終わり、研修で終わりではなく、それぞれが職場や社会での行動変革に挑戦してもらう。	国と国との利害を超えて、人と人とのつながりを築き、共感し合える場としての船旅を実施	学生たちに国際的な文化・人材交流の機会を提供し、相互理解を深めることで日本と諸外国との友好親善を深める。また、日本への留学生に対する奨学金授与など、国際人の育成を支援する。
特色	開発途上国の経済・社会の発展や復興のため、高い志を持って自発的に協力しようとする市民の活動を支援するもの。 1965年にスタートした青年海外協力隊を中心とするこの歴史ある事業は、日本政府・JICAが行う草の根レベルの国際協力の代表的な事業として広く認知され、相手国から高く評価されている。	ASEAN諸国を中心とするアジアの日本語教育を行う中等教育機関等に、現地日本語教師・学習者を支援する日本語パートナーズを派遣。	ホームステイや寮生活をしながら地元で通学し日本の高校生と同じ高校生活を送ることで、体験を通じて日本の社会や文化を理解し交流を深める。	・非日常的な空間・時間・人間関係の中に身を置くことで、日常の業務やさまざまなしがらみ、固定観念から解放され、自らを見つめなおすことができる。 ・初めて出会う他者と寝食を共にする密度の濃い時間を通じて、自らの考えや経験を自由かつ率直に語り合うことにより、相互に刺激啓発することができる。 ・自国内では容易に作り出すことのできない空間に身を置き、多様性を理解しながら、英語をはじめとするさまざまな異文化コミュニケーションに挑戦することで、新しいことにチャレンジする思いが芽生える。	世界各地を訪れ、さまざまな国や地域に暮らす人びとと直接出会い、顔の見える交流をする。ピースボートクルーズでは、多くの出会いの中で現地の人たちとともに考え、相互理解を深めていく、その“つながり”を大切にしています。船で各地を訪れる自分たちだけでなく、そこで待つ現地の人にとっても発見や驚きがある旅をする。それは船旅を通じて、国と国との利害関係を越えた、人のつながりを築いていくことです。その環が、地球をぐるっとつないでいく——そんな、世界がつながる旅のかたちを目指しています。 ピースボートの船内は、“好きなことを好きなだけ”という過ごし方ができる唯一無二の空間【ピースボートHPより抜粋】	日本と海外の高校生が、互いの国を訪問し、国際的な相互理解と親交を深める交流プログラム。文化や伝統、生活習慣の異なる同世代の若者たちが、「大使活動」「交流活動」「歴史・文化活動」の3つの活動を通じて交流。 アジア各国の若者が、開催国の社会問題をテーマに、視察や専門家によるレクチャーの後、グループディスカッションを行うプログラム。異なるバックグラウンドを持つインドネシア、カンボジア、タイ、中国、日本、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス9カ国の学生たちが、英語を共通言語として議論を重ね、問題への解決策を模索。グローバル感覚を養い、互いの価値観を認め合う場となっている。
対象者	開発途上国が要請する技術・技能を有する満20歳以上69歳以下の者	満20歳以上60歳以下	高校生	所属する企業・組織からの推薦(年齢制限なし) 【参加年齢の実績】20代:10%、30代:46%、40代:39%、50代:5%	制限なし	高校生 高校生、大学生
期間	原則2年間	派遣:6カ月～10カ月	11カ月	2都市コース:9日間 1都市コース:7日間	100日間程度	7日程度 【2019年ベトナム(ハノイ)】7日間 【2020年オンライン】3日
開始年	1965年	2014年	2006年	1971年	1983年	1990年 2011年
交流対象国	開発途上国 ※累計92か国を対象に実施	インドネシア、カンボジア、タイ、台湾、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ラオス	中国	2か国	全世界(1回の航海で約20カ国訪問) (200以上の寄港地の実績)	【日本中国】 中国 【日ASEAN】 インドネシア、カンボジア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオスのASEAN8カ国を中心に交流 ※これまでに17カ国と交流
交流形態	派遣(現地における技術協力)	派遣、招へい	招へい	船	船	派遣、招へい 開催国における会議
派遣・受入人数等	累計約5万4000人が従事 ・アジア:15,543名 ・アフリカ:15,499名 ・北米・中南米:14,376名 ・大洋州:4,712名 ・欧州:705名 (2020年3月末現在)	派遣:計515名(2019年度) 学習者招へい:10か国、50人	30名程度	【募集定員】 2都市コース:120名 1都市コース:60名	計600名程度	【2019年ベトナム(ハノイ)】9か国115名 日本(35名)、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス(各10名) 【2020年オンライン】9か国計72名 日本(21名)、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、ミャンマー、ラオス(各7名)、マレーシア(2名)
日本人の参加者の自己負担	—	—	—	2都市コース:61万3100円 1都市コース:55万3100円 ※2020年実施予定料金	約188万円～約720万円 ※2023年4月出港予定の旅行費用	パスポート、ビザ取得、日本出発地空港までの移動費用、個人的費用 ※プログラム上の費用は財団負担 パスポート、ビザ取得、日本出発地空港までの移動費用、個人的費用 ※プログラム上の費用は財団負担

(注)各団体HP等により作成